

## 「グローバルフェスタJAPAN2013」開催

01



「日本の国際協力がよく分かる!」とJICAブースには大勢の人が訪れた

10月5、6日、東京・日比谷公園で「グローバルフェスタJAPAN2013」(外務省、NPO法人国際協力NGOセンター、JICA共催)が開催されました。今年で23回目を迎える国内最大級の国際協力イベントに、2日間で約7万8000人が来場。「見つけよう!世界とつながるあなたのトビワ」をテーマに、国際機関や大使館、NGO、民間企業など約250の団体が、ブース出展、ワークショップ、料理やフェアトレード商品の販売などを通して、世界とのつながりを紹介しました。

JICAもブースを出展し、国際協力を身近に感じてもらえるようプロジェクトを紹介するパネルを展示したり、世界の民芸品がもらえるクイズラリーなどを実施しました。連日大好評で、2日間で約1000人も人が訪れました。

また、日本が開発途上国で実施する国際協力に関する質問にJICA職員が答える「JICAfile(ジャイカファイル)」を設置。国際協力を仕事にしたい人から、ボランティアとして関わりたい人まで、さまざまな質問が飛び交っていました。

メインステージで行われたイベントも大盛況でした。5日には、「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバーのさかなクンが登場。今年5月に訪れたアフリカ西部のセネガルで魚市場や漁を視察した様子や、現地でカキの養殖を支援する日本人専門家の活躍ぶりなどを報告しました。続いて行われたのは、日本の国際協力を紹介するテレビ番組『佐藤隆太の地球元気!』に出演中の俳優・佐藤隆太さんのトークショー。今年7月に訪れたインドネシアで出会った開発コンサルタント、青年海外協力隊員、大学の研究者などの取り組みについての感想を披露しました。

6日に行われた「地球のステージ」つながる日本とアフリカ」では、医師の桑山紀彦さんが歌・音楽・映像を織り交ぜながらアフリカを紹介。今年の夏に国際協力レポーターとしてルワンダを訪れた宮坂真弓さんらとのトークセッションもあり、ルワンダの現状や課題、その解決に取り組むJICAボランティアの活躍ぶりなどを報告しました。

今年も大盛況だったグローバルフェスタJAPAN。JICAは今後もこのようなイベントを通じて、国際協力の情報を分かりやすく発信していきます。



イラストを描きながら国際協力の大切さを伝えるさかなクン。会場は大盛り上がり

## Bangladesh全国で縫製工場の耐震を強化

02



覚書の署名式に参加した関係者たち

10月3日、JICAはBangladeshの縫製工場の安全性を高める支援を進めるため、Bangladesh縫製製品製造業・輸出業協会などを含む5団体と覚書を交わしました。

Bangladeshの縫製産業は、貧困層を中心とする約400万人の雇用を生み出し、全輸出収入の8割を占め、同国経済の根幹を支えています。しかし2013年4月、縫製工場が入るテナントビルが崩落し、1100人以上もの犠牲者が出ました。この事故は安全な労働環境や待遇改善を求めるデモや暴動に発展し、社会不安につながりました。

JICAは他国に先駆け、全国に約4000あるといわれる縫製工場の耐震化や建て替えの支援に取り組むことになりました。これはJICA専門家の指導を受けた技術者が建物の強度を診断し、その結果を受けて、建物の所有者が改修工事を希望すれば必要な資金を融資するというもの。本事業を通してJICAは、Bangladeshの人々の労働環境の改善、そして着実な経済発展に貢献していきます。

## 第9回「JICA理事長表彰」表彰式を開催

03



表彰式参加者と田中理事長(前列左から4人目)

10月7日、開発途上国の人材育成や社会発展に尽力した事業・個人団体に贈る第9回「JICA理事長表彰」の表彰式が行われました。

田中明彦JICA理事長は冒頭のあいさつで「環境やエネルギー、少子高齢化など、途上国と日本が抱える課題には共通点が多い。日本の民間企業、大学、地方自治体、市民社会などと幅広く連携し、日本と相手国の知見を結集して課題解決に取り組むことが大切」と述べました。

「JICA理事長賞」の個人部門では、日本の製造業の経営手法を教授し、インドの経営者の育成に尽力した司馬正次筑波大学名誉教授、エチオピア産の皮革製品の製造・販売を手掛け、現地の雇用創出や人材育成に貢献した青年海外協力隊OGの鮫島弘子さんの2人が受賞しました。

事業部門では、株式会社アルメックVPI他共同企業体と北海道旭川市が実施したモンゴル・ウランバートル市の都市再開発、沖縄県宮古島市がサモアで取り組んだ水資源保全対策・浄水処理を含む5事業が受賞しました。